

②北方領土問題に対する啓発活動の在り方

明るいイメージで捉えられるようにすべき

- ・ 北方領土問題は暗いイメージ、怖いイメージで捉えられているが、現地の若者はそれを明るいイメージにしたいと思っていることに共感し、またポップで入りやすいきっかけがあれば、関心度が変わるのではという意見がだされた。

過去に立脚するのではなく、現在の状況を起点に考える取り組みも必要

- ・ 過去や歴史を伝えていくことに対して、過去よりも現在を優先する若者との価値観の違いを指摘する声もあがった。若者は過去のことはいいから、今楽しくどうやっていけば友好がつなげていかと考えており、返してもらいたいけど、とにかく平和にこうよというのが印象的だったようだ。
- ・ ロシアの方と日本の方の共存も考えるべきと捉えられた。しかし、返還でなくても共存できるという考えを聞きながらも、元島民の方のふるさとに帰りたいという言葉がやはり大きく、返還は必要という考えにも共感でき、問題の複雑さがあらためて認識された。
- ・ 「返還とは言いながらも、交流に力を入れている」、「返還を訴える政治的立場と、地元住民としての交流を求める立場があり難しい問題だと感じた」などの声もあげられ、現在起点の交流に着目した活動に目が向けられた。若い世代にとっては過去の問題として取り組むのは難しく、現在の問題として取り組むことがわかりやすさ、身近さに繋がっている。
- ・ ロシア人と交流があるという事実を聞き、興味がでてきたという感想もだされた。歴史よりも現在に関心をもつ若者のスタンスがうかがえる。

限定的(とみえる)活動をそれ以外の地域に広げる仕組みが必要

- ・ 「北方領土問題啓発に携わる高校生の意識の高さに驚き、自分も何かできたらいいと思った」といった意見にみられるように、若い世代の活動に触発されたという意見も多く聞かれた。若い世代の活動を同世代に向けて発信することの有効性や社会貢献活動への関心が垣間見える。
- ・ 組織を挙げて活動することも重要だが、個人的な人脈を作って、友好を続けていくことが問題意識の拡大に繋がるし、ロシアの現住民とも個々人レベルで繋がることができるとよいという意見もだされた。
- ・ 「いたるところに返還の看板があり、普段から関心を持っていることが自分の住んでいる地域では考えられないので驚いた」という声もあり、北海道とその他の地域の温度差の違いを埋める必要性が感じられている。

<個別意見>

1	A:女性 /23歳/学生 /福岡県	ここに来るまでは 他人事のように思っていたが、パネルを見たり地元の人と交流することによって、そうではないと再認識した。昨日地元の高校生と話をし、いろいろ交流することによって、北方領土問題は結構重要なことなんだとわかった。将来的にも北方領土について携わっていきたいということを聞いて、一緒にの学生なのになんでこんなに意識が高いんだろうと思った。私も帰ってから何かしらできたらいいなと思った。
2	B:男性/23 歳/学生/ 岩手県	ここに来るまで領土問題は遠い存在、自分には関わりがないもの思っていたが、ここに来て 身近な存在だと思った。ロシア語の表記もあったし、すぐ見えるのにそこに行けないということで、身近だと思った。ただ、昨日話したのは根室の高1の女の子で、まだ始めたばかりで、あまり話題には上がらないということだったので、関心は思ったほど高くはないと思った。

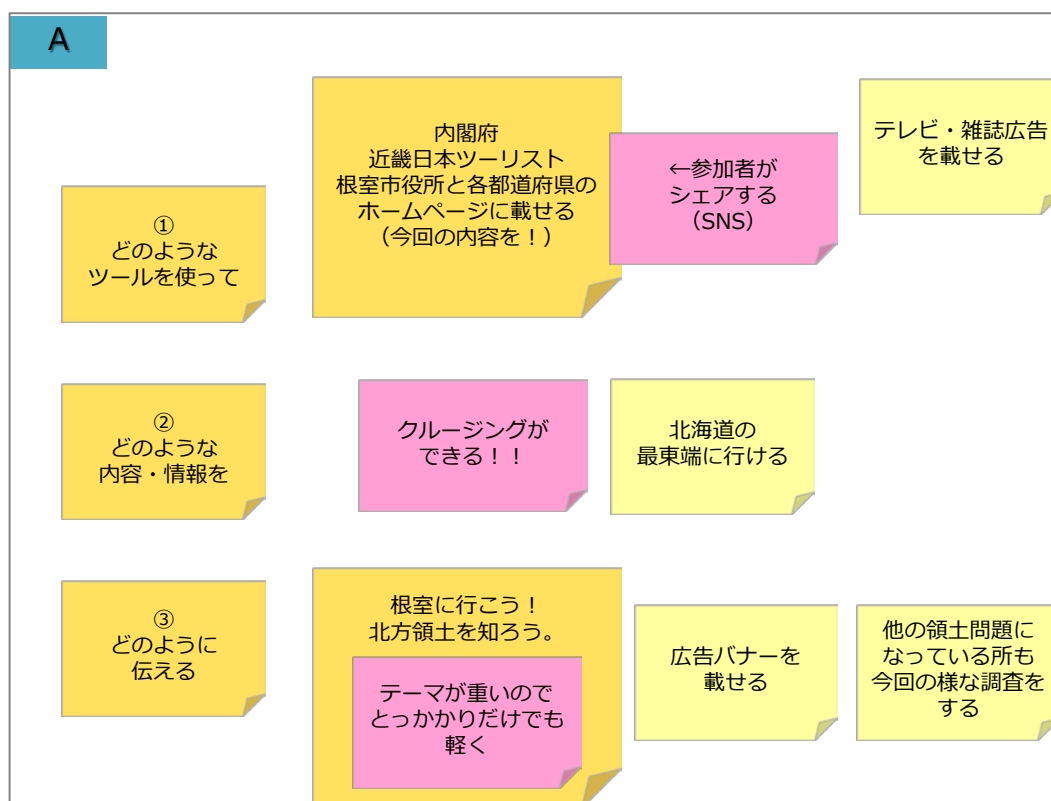
3	C:男性 /37歳/会 社員/茨城 県	<p>今回視察に参加する前までは、領土問題に対しては、島に乗り込んでいって無法地帯、無理矢理占領するイメージをもっていた。でも、過去の歴史はいろいろあるが、実際来て現状を教えてもらったら、実際には返還の希望を出しているが、交流のほうが主になっているのかなと感じた。返還返還と言いつつも交流に力を入れているのかなと思った。ビザなし交流とかホームビジットでお互い知ろうという、文化交流を深めていこうということはまずお互いを知ろうとしている姿勢を大切にしているのかなと。無理矢理返せではなく、まずはお互いを知って、共有できるように、ロシアと日本が共に住めるような島を作ろうとしているのかなと。共存を目指しているのかなと感じた。返還と言いつつも理想としては混住を目指しているのかなと思った。武力的に攻めるだけではなく、領土問題といえども中国・韓国とは違うんですよというのを感じた。</p> <p>今回の問題に対して2つの立場があると感じた。政治的な面で返還して欲しいという立場と、昨日会った地元の人からすると、交流という立場と。返還は国と国との問題。あんな小さな島でもあれだけ豊富な資源があるということは、それで経済が成り立つということで、難しい。住んでいる人は仲良くしたいと思うかもしれないが、政府から見ると、水産資源とか海洋資源は日本のものという話につながっていく。政治的な面と住んでいる当事者の考え方と、難しい。</p>
4	D:男性 /31歳/会 社員/京都 府	<p>最初に思ったのは、国民一人一人というか、僕たちもそうだが、関心度、知識が全然低かったということ。今回街に看板や数多くの資料館があり、どの資料館も歴史を深く書いていて、正直知らなかったことばかり。昨日同世代の方と話したときに、どうしても北方領土返還という暗いイメージがあるが、こちらで運動している人の中でも明るいポップなイメージをつけていきたいんだと感じた。エリカちゃんが出てきてやっとポップになって少しずつ変わってきているらしいが、どうしても僕の中には暗い、怖いイメージがあった。それが、知ろうという関心を削いでいたのかなと思う。ポップで入りやすいような取っかかりがあれば、みんな知ろうと思うのかなと思った。</p>
5	E:女性 /34歳/パ ート・アル バイト/福 井県	<p>印象に残ったことの1つめは、北方領土は日本の領土だったということ。ロシアに占領されていたというのを、そこまでのことを知らなかった。今まで北方領土は戦争で負けてロシアに取られていたと思っていたが、ここへ来て正しいことがわかってよかったと思う。もう1つ印象に残ったのは、パノラマクルーズで島のまわりの自然が豊かだったこと。北方領土のまわりには海の生き物、鳥、自然がいっぱいなので、誰でも観光として行けるようになったらいいなと思った。3つめはロシアによる不法占領。国が強制的にというのはなかなか難しいが、もともと日本のものなので、もう少し強い感じで返してもらえようできればと思う。少しでもあちらの敷地に入ったら撃たれたりすると聞いていたが、島の人に、日本も撃つのかと聞いたらそうではないということだった。撃つのはいけないが、日本も強い感じでいけたら変わってくるのかなと思う。</p>
6	F:女性/30 歳/パー ート・アル バイト/愛 知県	<p>意識もしていなかったし知識もまったくなく、ゼロから教えてもらった。教科書とか資料を見ただけでは全然頭に入らないし伝わらないことも、直接館長、元島民からすごく興味深く話を聞くことができた。自分から疑問が出てくるようになったこともよかった。昨日の交流会で私の隣に座った高校3年生の男の子は、おじいさまが元島民と言っていたが、普段の生活の中から意識が高い。こういうことに関わりたいと言っていた。私が高3のときは自分の好きな仕事に就きたいとか流行のものを意識していたから、そこで気持ちの差を感じた。一番衝撃的だったのはクルージング。今まで写真で見えていたものを肉眼で見たときに、こんなにすぐ行ける距離にあるんだということを実感した。本当に静かで動きがない景色だったので、寂しい感じがした。ただ、館長さんに、いつ何が起きてもおかしくない場所だよと言われたので、ちょっと怖いとも感じた。</p>
7	G:女性 /27歳/専 業主婦/大 阪府	<p>北方領土問題は、自分には関係なくて、政府の方とか、国を動かしている方の問題だと思っていた。それが、実際ここに来ていろいろな人の話を聞いて、いろいろな施設に行ったことで、根室の方も動いているんだということを感じた。自分は離れているところに住んでいるが、みんなが動くことが大事。歴史と北方領土問題が全然つながっていなかったが、戦前の話を聞いたら、北方領土問題は答えが出にくく難しい問題なんだと感じた。2日間いろいろ経験させてもらったことで、今までと違った見方でこの問題を考えられそうだ。</p>
8	H:男性 /35歳/会 社員/滋 賀県	<p>視察調査に参加するまでは、TVCMとかで北方領土の日があるんだと知っていた程度だった。今回根室に来てどこに行っても北方領土に対する看板があったことで、こんなに大きな運動をしていると知らなくてびっくりした。3日間で歴史とかを学んで、絶対返還されないといけないみたいな気持ちになったが、でも、返還も大事だが、お互いにメリットのある方法で解決できる方法がないかと、そういう気持ちに変化した。</p>
9	I:男性/38 歳/パー ート・アル バイト/東 京都	<p>名前を聞いたことがあるくらいで北方領土は他人事だったが、今回視察に参加して、その場を見て地域の方々の話を聞いて、触れ合って、いろいろなところに建っている返還の石碑や土蔵、それに携わるものを見て、まずそこに自分が興味を持つことが大事だと思った。初日はいろいろなことを聞いて、学ぶことのほうが多くていっぱいいっぱいだったが、昨日はさらに歴史を聞いた上で、自分には何ができるのかなと思った。一番簡単なのは昨日の地域の方との懇談会、人と触れ合うことではないか。今、北方領土に住んでいるロシアの方々や地域の方々は、そんなにいがみ合っていることはないのかなと思った。それなら、個人的にできる人脈を作って、少しずつ触れ合いを求めて友好していけば、自然と自分自身の意識も向上したまま、実は北方領土はこうなんだよと伝えていけるのかなと思った。自分で発信していくことが大事かなと感じた。</p>

① 今の時代に沿った北方領土返還要求運動の在り方、改善点

a. 同世代の人たちに「北方領土問題」に関心を持ってもらうプログラム・取組のアイデア

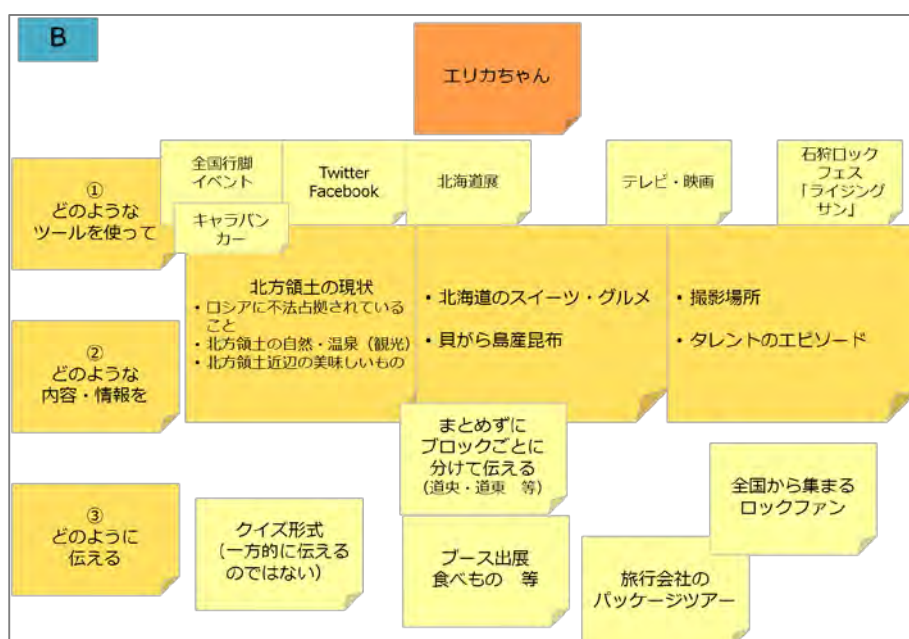
【A チーム】

- 今回自分達が参加した内容をそのまま、内閣府、近畿日本ツーリスト、根室市役所、各都道府県、市町村のホームページに掲載してもらう。タイトルは変えてもらって今回の内容そのまま。
- 今回視察した人が SNS でシェアしたり、TVCM、雑誌に載せるのも効果的。
- 今回「北方領土問題啓発に関する基礎調査」という堅いタイトルだったが、もっと軽くていいのではないか。
- まず来て、地域を見て、石碑や建設物を見て、最北端に行って普段味わえないことを味わって。しかもバックアップが内閣府だという安心感を得て来てもらって、歴史を見てもらうのが一番いい。
- とっかかりは根室に行こう、北方領土を知ろう。とにかく軽く。エリカちゃんもそうだし、石狩フェアもそうだし、一箇所に重点を置くのではなく、いろいろなところを見てもらうのがいいのかなと思う。
- 今こんなことをしているとつづやいたところで、まわりの友達はたぶん興味を示してくれない、信じてくれないと思うので、内閣府とか近畿日本ツーリストさんに載せてもらったものをシェアしたほうが、みんな見てくれて関心を持ってくれるのかなと思う。
- 僕はちょこちょこつづやいている。クルージングに行ったときのことをアップしたら、結構みんな反応してくれて、「もうちょっとで、お前帰ってこれへんな」みたいになったので、結構いいかなと思う。



【B チーム】

- 一番伝えたいことは、最終的には北方領土の現状。ロシアに不法占拠されていることを知らない人はたくさんいるので、最終的にはそこを知ってもらいたい。
- まずは北方領土はどんなところなのかを伝える。そのために北方領土の自然、温泉、観光、美味しいものをアピールしたい。Twitter、Facebook 等の SNS は切っても切り離せないものなので、これを有効的に使う。
- あとはエリカちゃん頼み。何に対してもエリカちゃんが出てくることで人に知ってもらいやすくなり、入りやすくなる。エリカちゃんにキャラバンカーに乗ってもらって全国に行ってもらってもいいし、パネルでクイズ形式にして、当たったら何かもらえますよみたいなことにしてもいい。一方通行にせず参加型。Twitter、Facebook で質問したら返してもらおうのもあり。
- あとは北海道展。エリカちゃんに頑張ってもらって、全国のデパートに行ってもらおうといい。北海道展とひとくくりになっているが、できれば道央、道東とわける。貝殻島産の昆布はインパクトが強いが、ロシアで採れた昆布が食べられるというのをアピールすることで北方領土のアピールになる。北海道展の中で、写真展示もする。重苦しい写真ではなく、昆布を採っているところ、カニを捕っているところの写真だけでも、この先は北方領土なんだと伝わると思った。
- テレビ、映画。昨日北方領土に行ったときにキムタクの「南極大陸」の看板がバーンと出ていたが、ここでやっていたんだと思った。あのドラマを根室で撮影したことをどれだけの人が知っているだろうか。ロケ地巡りをするファンもいるので、タレントが Twitter や Facebook で「根室で何々食べました」と書いてくれれば、根室への旅行から北方領土に興味を持ってもらえる。
- 毎年石狩で「ライジングサン」というロックフェスをやっているが、全国から何万人も来て、テントを張って1日中音楽を聴いている。そこそこ若い僕たち世代の人が全国から来ているが、その企業ブースとか飲食ブースの中にエリカちゃんとかイベントキャラバンカーみたいなのが出ることで、音楽を聴きにきた人が自然に知ることができる。
- 最終的には旅行会社が根室に行くパッケージツアーを企画する。今日僕らが見てきたようなこともそうだが、クルージングとか。最悪ラッコが見られるでもいいと思う。入りは何でもよくて、最終的には北方領土のことを考えないといけないと思ってもらえればいい。



【Cチーム】

- 一般的ではあるがYouTubeやニコ動を使って全国、さらには世界に発信していきたい。一般的に領土問題というと中国の尖閣諸島、韓国の竹島問題もあるが、実際我々が3日見てきた印象としては、中国、韓国と違って、日本とロシアの間では交流が非常に行われていると感じた。この点 は実際に来ないとわからない情報だったので、ここをもっと出して行けば、皆、領土問題に対する考え方が変わってくるのかなと思った。
- YouTube を見ていると、見たい動画の前に宣伝のような広告が5秒ほど出ることがあるが、この ような時間を使って交流の風景を流し、「詳しくはこちら」でURLをクリックしてもらって、内閣府や 自治体の活動風景をホームページで詳しく説明する。
- 電車広告なら、流れたときにふと見ると思う。電車に乗っている時間は5分、10分かもしれないが、 その間に有効に宣伝できるかなと思う。ただ、2~3分では内容が伝わらないと思うので、写真を使 いながらQRコード等を用いて具体的なホームページに誘導したい。
- エリカちゃんは、ネットや電車広告とは別の、完全に全世代に向けたもの。小学生からお年寄りま で。ネットを使わない人にも。ふなっしーが有名だが、あれに便乗してゆるきゃらグランプリで活躍 してもらい、エリカちゃんにきっかけになってほしい。テレビ、ネットの露出を増やして、興味をもっ てもらって、そこからホームページに誘導できればいいと思う。
- 今回の視察で、中国・韓国の領土問題と違って、肉眼で見ることができるのはここだけだと思う。 身近な問題であるからこそ、最初はとっかかりを柔らかく。エリカちゃんであるとか、とっかかりを 大事にしたい。

